1. 教育学部附属光小学校仮設校舎設置工事に伴う立会調査

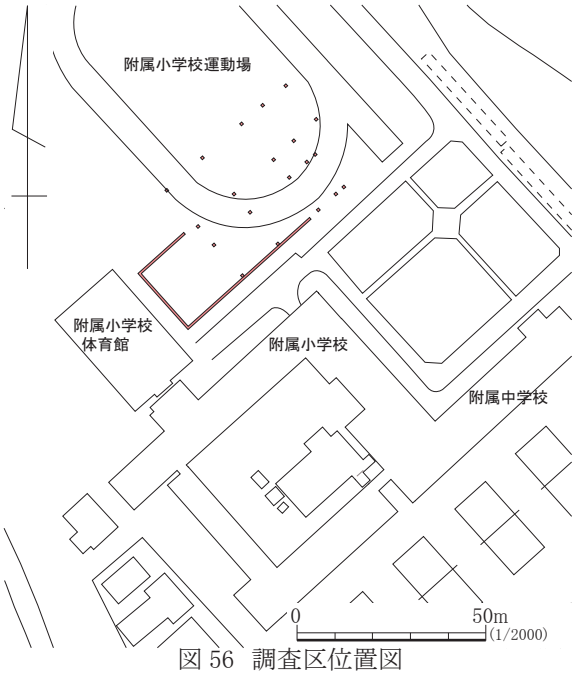

図 56　調査区位置図

写真 163　仮設校舎（北から）

写真 164　2地点（南西から）

調査地区　光構内

調査面積　約57㎡

調査期間　平成25年7月12・13・15～17日

調査担当　田畑直彦

調査結果

（1）調査の経緯（図56、写真163）

教育学部附属光小学校改修工事の決定に伴い、改修工事中は校舎が使用できなくなるため、仮設校舎を設置することになった。仮設校舎については埋蔵文化財の保護を考慮し、掘削深度を現地表下20㎝程度としたため、埋蔵文化財に支障は生じなかったが、設備関係工事については、一定程度の掘削深度が必要となるため、埋蔵文化財が検出される恐れのある掘削箇所について立会調査を実施することになった。

（2）基本層序（写真165～172）

今回調査区の基本層序は下記の通りである。第1層：表土・造成土（層厚31～60㎝）、第2層：褐色（7.5YR4/3）細砂（層厚14～20㎝）、第3層：明黄褐色（10YR6/6）細砂（層厚11～25㎝）、第4層：淡黄色（2.5Y8/4）細砂（層厚13㎝以上）、第5層：暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂（層厚15㎝以上）。

第2層は平成2年度附属小学校改修工事に伴う発掘調査[註1]の第1遺構面形成層、平成24年度附属光学校下水道接続工事に伴う発掘調査・立会調査[註2]の第2遺構面形成層、第3層は平成2年度調査の第2遺構面形成層、平成24年度調査の第3遺構面形成層との対応が考えられる。

1～20地点は雨水枡設置箇所である。10地点では現地表下76㎝、その他は現地表下50㎝前後まで掘削が行われた。1地点では現地表下34㎝、6地点では現地表下52㎝、7地点では現地表下45㎝、8地点では現地表下41㎝、11地点では現地表下31㎝、9地点では現地表下54㎝、14地点では現地表下38㎝で第2層を検出した。いずれの地点においても第2層から遺物は出土しなかった。

21地点は排水管埋設箇所である。以下、4つの地点の層序を示す。21－1地点の層序は、現地表下34㎝までが第1層、以下34～59㎝が第2層、59～72㎝が第4層、72～87㎝が第5層で、第3層は認められ

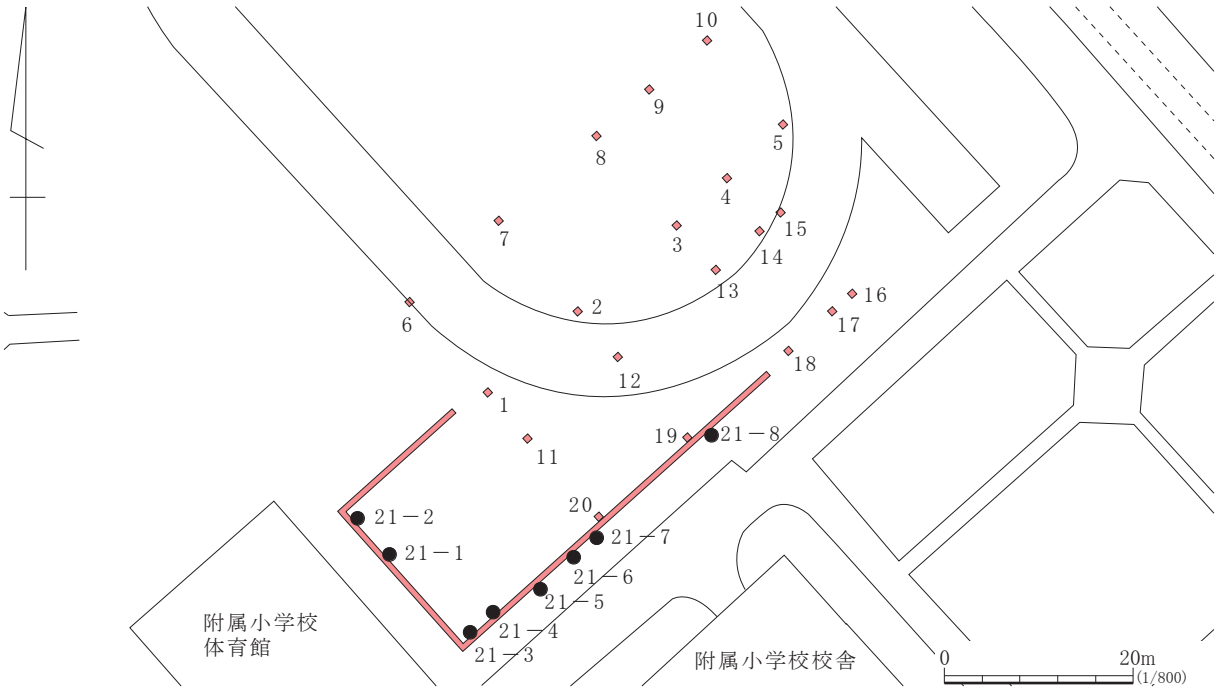

図 57　調査区詳細図

なかった。21－2地点の層序は、現地表下32cmまでが第1層、以下32～50cmが第2層、50～78cmが第4層であった。21－3地点の層序は、現地表下36cmまでが第1層、以下31～45cmまでが第2層、52～70cmまでが第3層、70～97cmが第4層であった。21－8地点の層序は、現地表下55cmまでが第1層で、底面で第2層を検出した。

(3)遺構（写真165～170）

21－2地点で第2層、21－1、3～6地点の壁面において、第3層を検出面とする遺構を各1基検出した。土壙と仮称するが、断面のみの確認であるため、土壙以外の遺構であった可能性もある。

21－2地点で検出した土壙は、幅70cm、深さ50cmであった。埋土は灰黄褐色（10YR4/2）細砂で、15cm大の礫を多数含んでいた。近世～近代の遺構と推測される。

21－1地点で検出した土壙は幅28cm、深さ9cmで埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2)細砂であった。21－3地点で検出した土壙は、幅100cm以上、深さ52cmで、埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2)細砂で炭を含んでいた。21－4地点で検出した土壙は、幅78cm、深さ60cmで、埋土は灰黄褐色（10YR4/2）細砂であった。21－5地点で検出した土壙は幅66cm、深さ42cmで、埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2)細砂で炭を含んでいた。21－6地点で検出した土壙は、幅64cm、深さ17cmで埋土は暗灰黄色（2.5Y5/2）細砂であった。いずれの土壙からも遺物は出土しなかったが、古墳時代の遺構と推測される。

(4)遺物（図58、写真173）

第1層、排土から少量の土器片が出土したほか、21－3・8地点で第2層から土師器片が少量出土した。また、21－7地点では第3層から土師器甕もしくは甑の把手が出土した。

写真165　21－1地点南西壁土層断面（南西から）

写真166　21－2地点南西壁土層断面（南西から）

写真167　21－3地点北西壁土層断面（南東から）

写真168　21－4地点北西壁土層断面（南東から）

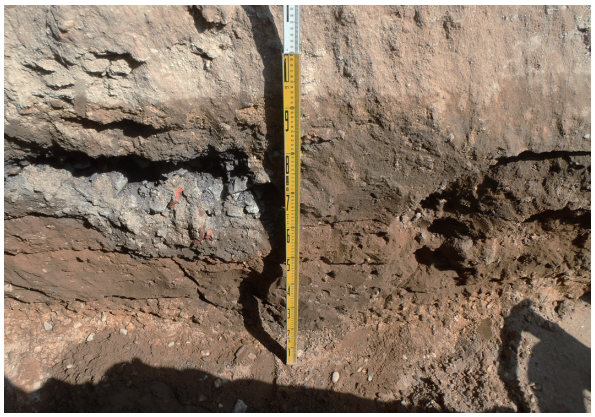

写真169　21－5地点南東壁土層断面（北西から）

写真170　21－6地点南東壁土層断面（北西から）

写真171　21－7地点南東壁土層断面（北西から）

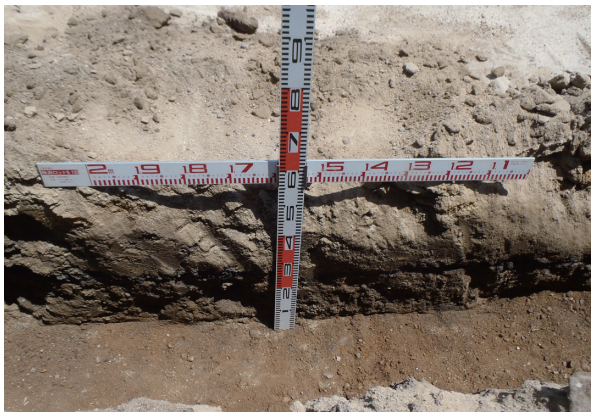

写真172　21－8地点南東壁土層断面（北西から）

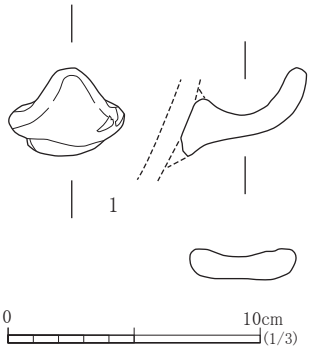

図 58　出土遺物実測図（土器）

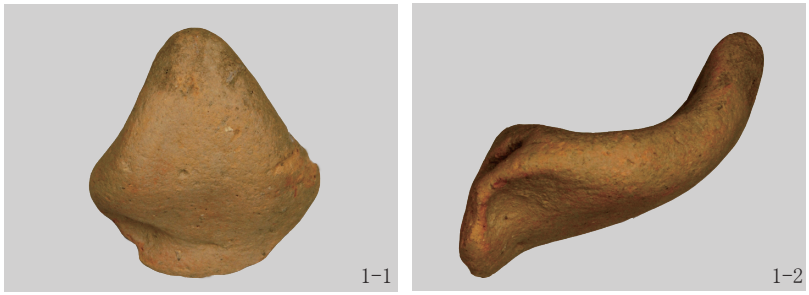

写真 173　出土遺物（土器）

表10　出土遺物（土器）観察表

法量(　)は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	21-7地点 第3層	土師器 甕もしくは甑			①②にぶい黄褐色 (10YR7/4)	0.1～3㎜の砂粒を含む	

（5）小結

今回調査区のうち、21地点は平成2年度・24年度調査で遺構が検出された調査区に隣接している。調査の結果、第2・3層から遺構が検出された。特に第3層では5基の土壙が検出された。これらは断面のみの確認であるため、土壙以外の遺構である可能性もあるが、平成2・24年度調査区で確認された古墳時代の遺構がさらに北側に広がっていることがほぼ確実となった。以上から、引き続き、調査区周辺においては埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

1）河村吉行（1992）「光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口

2）田畑直彦（2016）「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』,山口

2. 教育学部附属光小学校校舎改修その他工事に伴う立会調査
教育学部附属光小学校校舎機械設備改修その他工事に伴う立会調査
教育学部附属光小学校校舎電気設備改修その他工事に伴う立会調査

図 59　調査区位置図

調査地区　光構内

調査面積　412㎡（改修その他工事［1・2地点］：約337㎡、機械設備改修その他工事［3～9地点］：約47㎡、電気設備改修その他工事［10地点］：約28㎡）

調査期間　改修その他工事：平成25年11月27日・平成26年4月7日、機械設備改修その他工事：平成26年2月12・20・21・24日、電気設備改修その他工事：平成25年12月2・12・13・16日

調査担当　田畑直彦

調査結果

教育学部附属光小学校改修その他工事、同機械設備改修その他工事、同電気設備改修改修その他工事に伴い、立会調査を実施した。

1地点は校舎（旧視聴覚棟）建替箇所である。既設建物の基礎による攪乱が著しかった。1－1地点の層序は、現地表下25㎝までが①表土・造成土、以下、25～45㎝が②褐色（10YR4/4）粗砂、45～57㎝が③明黄褐色（2.5Y7/6）細砂、57～91㎝が④灰白色（2.5Y7/1）細砂、91～237㎝が⑤灰白色（2.5Y7/1）粗砂であった。また、⑤層からは湧水していた。

2地点はスロープ新設箇所で、現地表下40㎝まで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。

3～9地点は排水管新設箇所である。3地点の層序は、現地表下35㎝までが①表土、造成土で以下、35～46㎝が、②黒褐色（10YR3/2）細砂と灰黄褐色（10YR4/2）細砂のブロック、46～102㎝が③にぶい黄色（2.5Y6/4）細砂であった。いずれの層からも遺物は出土しなかった。4地点は現地表下90㎝、5地点は77㎝、6地点は87㎝まで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。7－1地点は現地表下75㎝までが①表土・造成土で、75～77㎝が②黄褐色（2.5Y5/4）細砂であった。7－2地点は、現地

写真174　1－1地点南東壁土層断面（北西から）

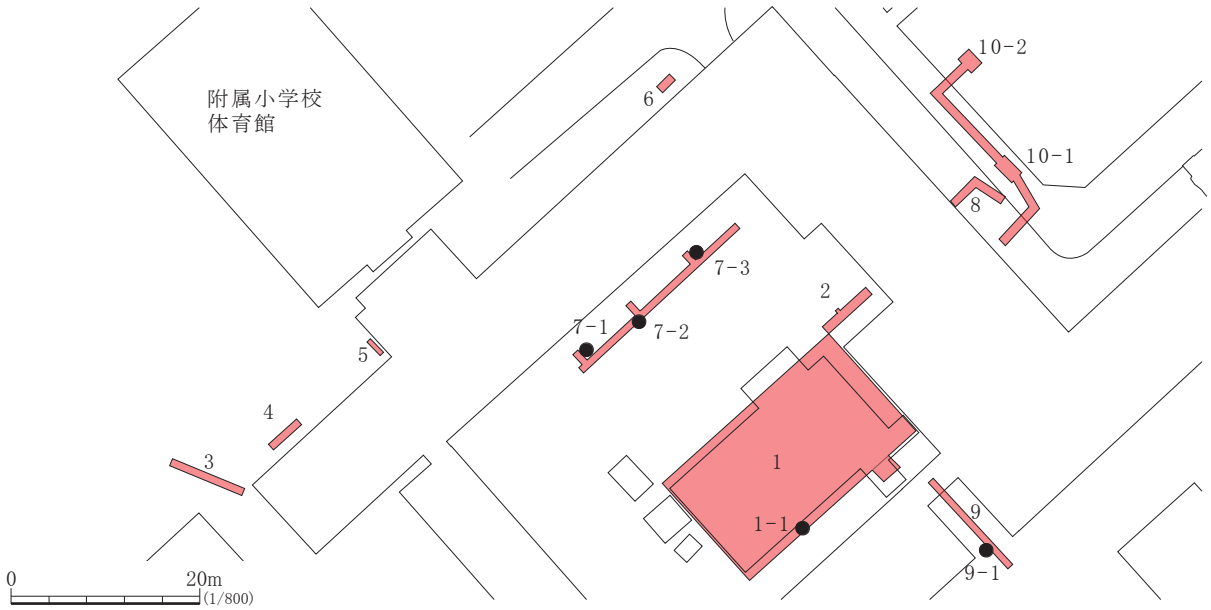

図 60　調査区詳細図

表下56㎝までが①表土・造成土で、以下56～70㎝が②オリーブ褐色（2.5Y4/4)細砂、70～80㎝が③黄褐色（2.5Y5/4）細砂であった。７－３地点は現地表下77㎝までが①表土・造成土で、底面で②オリーブ褐色（2.5Y4/4)細砂を検出した。８地点は現地表下約90㎝まで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。９－１地点の層序は、現地表下90㎝までが①表土・造成土で、以下90～124㎝が②オリーブ黄色（5Y6/3）粗砂であった。なお、同地点周辺には工事用の足場があった関係で、調査区壁面に崩落の危険性が生じたため、十分な調査ができなかった。

10地点は電気配線新設箇所である。10－１地点の層序は、現地表下30㎝までが①表土・造成土で、以下、30～43㎝が②にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂、43～72㎝が③黒褐色（10YR3/1)粗砂、72～130㎝が④黒褐色（10YR3/1)粗砂（明黄褐色（10YR6/6)粗砂を少量含む）、130～140㎝が⑤明黄褐色（10YR6/6)粗砂（黒褐色（10YR3/1)粗砂を少量含む）であり、④・⑤層は黄橙色（10YR8/6）粗砂を肩部として落ち込んでいる状況が確認できた。これらは平成24年度附属光学校下水道接続工事に伴う発掘調査・立会調査[註1]D調査区第2・第3遺構面で検出された落ち込みの延長部分である可能性が高い。②層からは須恵器片（甕口縁部か）１点が出土した。10－２地点の層序は、現地表下54㎝までが①表土・造成土で、以下54～99㎝が②オリーブ黒色（7.5Y3/1）粗砂、99～128㎝が③黄色（2.5Y8/8)粗砂で、②層から土器片が2点出土した。

今回の調査の結果、10－1・2地点で遺物包含層もしくは落ち込み埋土と考えられる土層を検出した。これらは調査区北東側に分布していると推測される。以上から、特に10地点周辺では埋蔵文化財の保護に注意を払う必要がある。

【註】

1）田畑直彦（2016）「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』,山口

写真175　1地点全景（北から）

写真 176　3地点北東壁土層断面（南西から）

写真 177　7地点全景（南西から）

写真178　7－2地点南東壁土層断面（北西から）

写真179　8地点南東・南西壁土層断面（北東から）

写真180　9－1地点南西壁（北東から）

写真181　10－1地点北東壁土層断面（南西から）

写真182　10－2地点南西壁土層断面（北東から）